

報告書

2024年3月14日

【件名】丸亀市「よこぐし」のアートマネジメント講座

【報告者】講座全体コーディネーター担当

石川清隆 [表現とまなび実践研究ラボ(合同会社Foto-Musica)]

【講座実施一覧】

[一般参加者コース]

(WS:ワークショップ F:ファシリテーター)

	日付	形式	テーマ・内容	担当
[1]	2023年 12/10(日) 13:30-17:30	講義	・文化芸術体験活動の 個人に及ぼす変化 社会に与える影響	講師:大澤、新井 F:石川
[2]	2024年 1/7(日) 13:30-16:30	講義・ミニ ワーク	・場づくりについて ・ミニワーク(自己紹介) ・コンセプトワーク など	講師:石川
[3]	1/21(日) 9:30-12:30	WS体験	・演劇ワークショップ体験 ・コミュニケーション・グループワーク・ 協働(コラボレーション)等	講師:わたなべ F:石川
[4]	1/21(日) 13:30-17:00	WS見学・ 振り返り	・演劇ワークショップの見学 ・見学後の振り返り	講師:わたなべ F:石川

[ADVANCED(経験者)コース]

	日付	形式	テーマ・内容	担当
[A1]	2023年 12/10(日) 13:30-17:30	講義	・文化芸術体験活動の 個人に及ぼす変化 社会に与える影響 ([1]と合同での実施)	講師:大澤、新井 F:石川
[A2]	2024年 1/8(月・祝) 13:30-16:30	講義・ミニ ワーク	・場づくりについて ・ミニワーク(自己紹介) ・コーディネーターについて 等	講師:石川
[A3]	1/21(日) 9:30-12:30	WS見学	・演劇ワークショップの見学	講師:わたなべ F:石川
[A4]	2/12(月・振休) 13:30-18:00	講義・ ミニワーク	・自身の文化芸術活動と社会とのつな がりを考える ・ロジックモデル概要講義 ・ロジックモデル作成体験	講師:今尾 F:石川

【ファシリテーター・講師一覧(担当順)】

大澤寅雄 文化commons研究所 代表・主任研究員

新井英夫 体奏家/ ダンスアーティスト

石川清隆 表現とまなび実践研究ラボ(合同会社Foto-Musica)代表

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科(GA)特任助手

青山学院大学社会情報学部(ワークショップデザイナー育成プログラム)特別研究員

わたなべ なおこ 演出家/ ワorkshopファシリテーター

劇団あなざーわーくす主宰/ NPO法人PAVLIC理事

今尾江美子 ケイスリー株式会社 ディレクター

【講座の目的】

福祉、医療、教育など様々な分野の課題を、文化芸術が横串となってつなげながら解決に導くためのアプローチを考えるための講座として、地域の人材を育成し、新市民会館「みんなの劇場(仮称)」開館後の「リンクワーカー」(つながりをつくる人)として地域で活動することを目指す。地域で活動する人の中には、「つながり」をキーワードとして、課題を取り巻く環境や状態に変化を生むファシリテーションスキルや新たな解決策に向けたコーディネートスキルをもつ人や、会館の活動をサポートをしてくれる人、直接事業に関わらなくとも、事業の趣旨に賛同・応援し、第三者にその活動などを紹介してくれるような人など、多層的な関わりの人々を想定する。

【講座の実施方法】

昨年度まで実施してきたファシリテーター・コーディネーター養成講座を、一般市民を対象に広く募集するコースと、経験者を対象にするコースの2コースに分けて実施する。

【対象参加者想定】

主に香川県内、四国内の文化芸術活動に携わるアーティストや社会課題解決に向けた活動に取り組む市民活動団体、NPO、ボランティアなど。

【講座全体のデザイン】

昨年度は、コーディネーター・ファシリテーター向けに「体験とまなびの場としてのワークショップ(参加型体験活動)」に関わる事柄を中心に講座をプログラミングしたが、本年度は文化事業の範囲を、福祉や医療、地域や子育てなどの分野と相互的に捉え、「場づくり」や「ウェルビーイング」に関わる事柄を軸に、芸術活動がそれらにどのように寄与できるか、そうした活動を新市民会館が担う必要性・可能性などについて考える場となるよう、委託者受託者を含むミーティングを重ね、プログラムを組んだ。

講座のスタイルとしては昨年度同様、知識を「覚える」ことだけでなく、覚えたこと、学んだことを、参加者自身や自身の仲間とともに活用できる、すなわち知識や経験を自身の能力として「使える」ようになっていくことを念頭に置き、講義だけでなくワークショップ体験、ミニワークを組み込み、それをもとにした振り返りを軸において構成した。

【各回の実施概要】

(一般コース・ADVANCEDコース共通1日目)

[1]	2023年 12/10(日) 13:30-17:30	講義	・文化芸術体験活動の 個人に及ぼす変化 社会に与える影響	講師:大澤、新井 F:石川
-----	----------------------------------	----	------------------------------------	------------------

【参加者】6名

[A1]	2023年 12/10(日) 13:30-17:30	講義	・文化芸術体験活動の 個人に及ぼす変化 社会に与える影響 ([1]と合同での実施)	講師:大澤、新井 F:石川
------	----------------------------------	----	--	------------------

【参加者】 5名**【概要】**

初回はどちらのコースの方にも押さえておいていただきたい内容として、2コース合同で実施。
導入として、公共ホールに過去勤務していた石川の自己紹介をしたのち、参加者自身の自己紹介を行うミニワークを実施。

大澤寅雄さんの「文化芸術活動と社会」「文化芸術活動と個人」についてのレクチャー後に、オンラインで新井英夫さんのプレゼンテーションと身体表現のミニワークを実施。難病で身体障害者となった自身の経験を含めた、障害と表現活動について伝えてもらった。

その後大澤さん、新井さんに加え、丸亀市文化課・松岡さんにも加わってもらい対談、そして質疑応答を行なった。

(一般コース2日目)

[2]	2024年 1/7(日) 13:30-16:30	講義・ミニ ワーク	・場づくりについて ・ミニワーク(自己紹介) ・コンセプトワーク など	講師:石川
-----	--------------------------------	--------------	---	-------

【参加者】 13名

【概要】

前回に引き続き、自己紹介のミニワークを実施。昨年度の講座を受講してくれていた方もいたが、初めての方もいたため、昨年度と同様の話も混ぜながら講座を進めた。

表現芸術のワークショップを「学びの場」として捉えることができることも簡単に解説し、公共劇場が社会教育の役割を担えることも併せて伝えた。「学び」という言葉が、言葉を覚えたり、計算ができると言った狭義の学習を指すのではなく、対人関係や自己効力感につながる、非認知能力に関わることも含んだ広い意味での「学び」であることも付け加えた。

このコースにはカナダから来日して暮らしている英語話者も参加していた。日本語はあまり話せず、多少の日常会話ができるのみであったが、本人の強い参加希望があり、またこの講座の特性上多様性・多文化共生を考える場面も多く、受講の受け入れを決め、可能な限りの情報伝達と体験をしてもらえるよう努力した。

(一般コース3日目)

[3]	1/21(日) 9:30-12:30	WS体験	・演劇ワークショップ体験 ・コミュニケーション・グループワーク・ 協働(コラボレーション)等	講師:わたなべ F:石川
[4]	1/21(日) 13:30-17:00	WS見学・ 振り返り	・演劇ワークショップの見学 ・見学後の振り返り	講師:わたなべ F:石川

【参加者】午前[3] 16名

午後[4] 26名(一般参加16名+WS参加者として市内保育士10名)

【概要】

午前 [3]

わたなべさんに演劇の手法を用いて90分間のワークショップを実施してもらい、参加者に体験してもらった。テーマは「コミュニケーション」と設定した。

ウォームアップとしてのゲーム的要素の多いワークから始まり、徐々に偶然隣り合って座った人に「自己紹介をする」「あることについて話す」など、演劇的要素が追加されていき、4人1組となり、そのうち一人の経験を元にした数分の芝居をつくり、グループごとに発表した。

あくまで「上手に演技を行う」ことが目的でなく、「私でない、他の人の経験を体験してみる」経験や、「自分の体験を他の人に演じてもらい、客観的にとらえる」経験をした。また、グループでアイデアを出しながらひとつの小さな作品を作るためのアウトプット作業において「合意形成を行う」体験など、コミュニケーションに関わるタスクを経験した。

午後[4]

市内の保育関係者を参加者として、[3]と同様のプログラムのワークショップを実施。午前中に参加者として経験したワークショップを、今度は観察者として見学し、ファシリテーターの様子、発言、ふるまい、及び参加者の様子、変化などを可能な限り丁寧に観察してもらった。

ワークショップ後の時間で、見学後の振り返りを行い、自身が見取ったこと、推測したことを中心に対話し、他者との見取りの違いを含め、気づきや学びを共有した。

この回で一般参加者のコース全4回は終了となった。

(ADVANCEDコース2日目)

[A2]	2024年 1/8(月・祝) 13:30-16:30	講義・ミニ ワーク	・場づくりについて ・ミニワーク(自己紹介) ・コーディネーターについて 等	講師:石川
------	----------------------------------	--------------	--	-------

【参加者】 6名

【概要】

昨年度の講座を受講してくれていた方もいたが、初めての方もいたため、昨年度と同様の話も混ぜながら講座を進めた。こちらのコースは、すでにワークショップを行ったり、幼稚園等へのアウトリーチ活動を行なっている方向けの講座として開講したので、表現芸術のワークショップを「学びの場」として捉えることができること、そしてその場が学習の場であることから、公共劇場が社会教育の役割を担えることや、場づくりの際に考慮しておいてほしいことを中心に伝えた。「学び」という言葉が、言葉を覚えたり、計算ができると言った狭義の学習を指すのではなく、対人関係や自己効力感につながる、非認知能力に関わることも含んだ広い意味での「学び」であることも付け加えた。

(ADVANCEDコース3日目)

[A3]	1/21(日) 9:30-12:30	WS見学	・演劇ワークショップの見学	講師:わたなべ F:石川
------	-----------------------	------	---------------	-----------------

【参加者】 5名

【概要】

一般参加者コースの[3]を見学し、その後、振り返りを行い、自身が見取ったこと、推測したことを中心に対話し、他者との見取りの違いを含め、気づきや学びを簡単に共有し、次回講座の素材として持ち帰った。

またファシリテーターのわたなべさんのファシリテーション、プログラムデザインについても気づいたことを記録し、学びとした。

(ADVANCEDコース4日目)

[A4]	2/12(月・振休) 13:30-18:00	講義・ ミニワーク	・自身の文化芸術活動と社会とのつながりを考える ・ロジックモデル概要講義 ・ロジックモデル作成体験	講師: 今尾 F: 石川
------	---------------------------	--------------	---	-----------------

【参加者】 7名

【概要】

導入後、今尾さんからロジックモデルについての概要についての講義を行い、前回のワークショップ見学の簡単な振り返りを行なった。

その後、ワークショップでどのようなこと(参加者の変化など)が起こっていたかを整理、そうした活動が中長期的にどのような影響を及ぼす可能性があるかをロジックモデル作成体験を行いながら意見交換した。

【延べ参加者数】 84名

【講座全体の所感】

昨年度に引き続き講座全体のコーディネートを担当させていただいたことを嬉しく思います。昨年度と同様の感想になりますが、講座準備や、身体に不調のあるファシリテーターへのケア、そして(体験しないとわかりづらいという特性をもつワークショップに)時には一緒に参加して、身をもって理解しようと努めてくださった丸亀市職員の方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

昨年度も受講してくれた参加者に関しては重複する内容もあったかとは思いますが、一年という時間で自身の活動をされ、その中での気づきや疑問などを持って、再び同様の話を聞いたときに、おそらく前回とは違った気づきや学びを得られたことと思います。

今年度は一般市民参加者コースと経験者コースの2コースに分けて実施しました。第一回目の講義内容は共通のものとし、2回目以降からはそれぞれの参加者に適した専門度合いでの話と体験を組み込みました。「まずは広く知る」という一般コースと、「自身の活動を既に行っている人が、今後の市民会館運営と関わっていく際に考えてほしいこと」に触れる経験者コースとを分けることで、それぞれの知識や活動環境と大きく乖離しないという点で、一定の効果があつたように思います。

しかしながら、(ADVANCEDのコースでは特に)連続で受講してくれる人数が少なかったこと、専門分野は近いけれども実践経験のない学生が入っていることで、想定したよりは深掘りしにくい状況にあつたと感じました。(一般のコースでは、全回参加でなくてもなんとなく話が通じる形に(結果的に)なっていました)

全回出席を前提に連続講座として参加者集めをしようとする、人数が減ってしまう可能性もあり、このあたりはトレードオフなのかもしれませんが、次回講座設計の際には優先度を考えるなど、ご相談したいと思います。

【今後について】

上にも書きましたが、コース分けを一般参加者/実践経験者として分けるのがよいかどうか、再考する必要があると感じました。もしかしたら、ここ2年で行なってきた講座を受講した経験があるか否かでわかるのもひとつの手かもしれません。(過去の講座経験者で希望する方はADVANCEDコースなど)

或いは、わたなべさんなどの熟達したファシリテーターのワークショップ現場を用意し、講座受講経験を前提として、現場に同行する参加者を募ることも考えられるかもしれません。(一緒に事前準備を行う、当日現場への同行、文字記録や映像などを用いて事後の振り返りを一緒に行う、など)この場合、少人数の受け入れになると思いますが、より実践的な形になっていくと思います。

また、(限られた人が対象になるかと思いますが)希望があればアシスタント的に現場に入ってもらおうという可能性についても、わたなべさんの意見を聞いてみたいと思います。

以上